

農作物技術情報 第7号の要約

平成21年 9月25日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<ul style="list-style-type: none">○ 県内の水稲は多くのところで刈り取り適期に達しています。刈り遅れは品質低下の原因となりますので、適期刈りを励行してください。○ 水口や生育の遅れている部分は刈り分け、倒伏した圃場では慎重な収穫作業(適切な作業速度、刈り分けによる品質確保等)を行ってください。
畑作物	<ul style="list-style-type: none">○ 大豆:10月中旬から収穫が始まります。収穫機械の調整・清掃や圃場の除草を行い、適期に収穫できるよう準備をすすめましょう。また、施設を利用して乾燥調製を行う場合は、あらかじめ連絡を取り合い、計画的に作業できるようにしましょう。○ 小麦:播種適期を迎えています。適期を逃さず確実に作業を行い、生育量の確保に努めましょう。圃場条件が整わず適期を逃した圃場では、播種量を増やし、条件の良い時を待って播種しましょう。
野菜	<ul style="list-style-type: none">○ 果菜類:収穫期は終盤に向かっていきます。適切な管理で収穫量を落とさないように心がけましょう。また、収穫終了後の茎葉は圃場外に持ち出し処分し、病虫害の発生源を残さないようにしましょう。○ 雨よけほうれんそう:年内収穫のほうれんそうのは種時期はほぼ終了です。今後は確実に収穫できるように適切な温度管理をするとともに、べと病やホウレンソウケナガコナダニの防除を心がけましょう。○ 露地葉菜類:生育が緩慢となってきますが、適期収穫に心がけましょう。○ 冬春野菜:寒締めほうれんそうは適期播種と適正な温度管理で品質向上を図りましょう。
花き	<ul style="list-style-type: none">○ りんどう:晩生種、極晩生種は平年並みの生育となっています。花腐菌核病などの病虫害防除の徹底と、翌年に向けた収穫後管理を行いましょう。○ 小ぎく:秋開花品種の白さび病防除と、健全な親株を確保しましょう。
果樹	<ul style="list-style-type: none">○ りんご:9月21日現在の果実肥大は平年よりやや大きく、中生品種の成熟は概ね平年並みと思われます。着色管理、収穫作業を適期に行いましょう。特に、「ジョナゴールド」の収穫は、着色がばらつきますので、すぐりもぎを徹底しましょう。○ 全般:台風などの強風害に備え、防風ネットや支柱を点検し、園地の排水対策を講じましょう。
畜産	<ul style="list-style-type: none">○ トウモロコシの収穫作業が始まりました。圃場・品種ごとに熟期を確認して作業を進めましょう。○ 牧草の刈り取り危険帯の時期に入ります。この時期は刈り取りや施肥を避け、来春の生育にそなえましょう。○ ライ麦の播種適期となります。適期に播種を行い、播種後の鎮圧を確実にを行います。

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 水稻

発行日 平成21年 9月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

県内の水稻は多くのところで刈り取り適期に達しています。刈り遅れは品質低下の原因となりますので、適期刈りを励行してください。

なお、水口や生育の遅れている部分は刈り分け、倒伏した圃場では慎重な収穫作業(適切な作業速度、刈り分けによる品質確保等)を行ってください。

1 適期刈り取りの励行

県内の水稻は多くのところで刈り取り適期を迎えています。刈り遅れは着色粒等の発生により品質低下の原因となりますので、適期刈り取りを励行してください。

<刈り取り適期の判断>

籾の黄化割合が80～90%となったら刈り取りを行ってください。

2 品質向上に向けた収穫対策

水口の生育遅れ、倒伏した圃場がところどころに見られます。このようなところでは、以下を参考に対応してください。

(1) 生育ムラの大きな圃場

- ア 水口の生育遅れている部分は刈り分けを行って、その他の部分と混ぜないようにする。
- イ 草丈にムラがあるときは、こぎ深さをこまめに調節して、できるだけ同一条件で刈り取る。

(2) 倒伏した圃場

- ア 倒伏したままの稲の稈は切れやすく、コンバインが詰まりやすくなるので、作業速度はできるだけ遅くすること。
- イ 穂発芽等により品質低下がみられる場合には、刈り分けをすること。

(3) 農作業安全

- ア 圃場での移動、運搬の際の転倒事故や追突事故には十分注意すること。
- イ コンバインにワラ等が詰まった場合には、必ずエンジンを止めてからこれらを取り除くこと。
- ウ 夕方の事故が多いので、休息をとりながら焦らず、慎重な作業を心がけること。

農作物技術情報第8号は10月29日(木)発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
急ぐより 家族の笑顔を大切に 想う心で ゆとりの仕事

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農業使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 畑作物

発行日 平成21年 9月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

大豆：10月中旬から大豆の収穫が始まります。収穫機械の調整・清掃や圃場の除草を行い、適期に収穫できるよう準備をすすめてみましょう。また、施設を利用して乾燥調製を行う場合は、あらかじめ連絡を取り合い、計画的に作業できるようにしましょう。

小麦：小麦の播種適期となっています。適期を逃さず確実に作業を行い、生育量の確保に努めましょう。圃場条件が整わず適期を逃した圃場では、播種量を増やし、条件の良い時を待って播種しましょう。

I 大豆

生育の様子：天候に恵まれ、順調に登熟しています。

1 収穫作業のまえに

除草

アメリカセンダングサなどの大型雑草は、収穫時に汚損粒の発生原因となるので、収穫前に取り除きましょう。

大豆畑で問題となっている雑草の種子は、湛水処理では死滅しないものが多く、一度多発するとブロックローテーションで水稻を作付けしても雑草が減ることはほとんどありません。雑草防除のポイントは、種子をほ場に落とさないことです。

コンバインの清掃

収穫作業の前には必ず清掃を実施し、作業に支障が出ないか確認しておきましょう。また、土をかき込んだ時など収穫作業中でもコンバインの清掃が必要となることがあるので、清掃のポイントを把握し、効率的に行えるようにしておきましょう。

乾燥・調整施設の確認

乾燥・調整施設を利用する場合には、その稼働計画について確認し、ほ場の様子を踏まえた上で、刈り取りの順番、収穫機械やオペレーターの確保等、準備をすすめてみましょう。

2 収穫

成熟期の判断

適期に収穫するためには、まず成熟期を知ることが必要となります。

成熟期は次の2つから判断します。

(1) ほ場のほとんどの株で、大部分の莢が熟色になっている

(2) 莢の中の子実が乾燥子実の形になっている

莢を振ってカラカラ音がするようになったら、数カ所で実際に莢をむいて確認します。

成熟期を確認したら、表1を参考に収穫作業に入ります。

表1 成熟期からコンバイン収穫適期までの日数

品種	成熟期からコンバイン収穫適期までの日数		
	早限	晩限	収穫(適)期間
コスズ、すずほのか	7～10日後	30日後	20～23日
ユキホマレ	7～10日後	20～25日後	10～18日
スズカリ、ナンブシロメ	10日後	20～25日後	10～15日
リュウホウ	10日後	20日後	10日
青丸くん	10日後	16日後	6日間前後

※「青丸くん」は刈り遅れると子実の色抜けが生じることから、直ちに刈り取れる体制を整えておき、収穫適期間になったら、一気に刈り取るようにする。
 ※「リュウホウ」はしわ粒が発生しやすいので、収穫適期になり次第、速やかに収穫すること。

コンバイン収穫のポイント

- * 茎水分が50%を超えると、こき胴でもまれ、汚損粒の発生原因となります。
 - ・ 茎水分50%以下の目安は、分枝が手でポキポキと折れるとき。
 - ・ 周囲の株と違い、青々として残っている株は抜き取る。
- * 損傷粒の発生は穀粒水分の影響を大きく受けます。
 - ・ 穀粒水分が20%以上と高い場合 → つぶれ粒を主体とする損傷粒が多くなる。
 - ・ 穀粒水分が低い場合 → 裂傷や割れ豆などの損傷粒が増える。
- * 収穫の時間帯は、茎葉がよく乾いた頃（晴れた日の午前10時過ぎ～午後5時頃まで）になります。

3 乾燥

子実水分が高いものを急速に乾燥させると、裂皮粒やしわ粒発生の原因となります。子実水分を均一に低減させるよう、送風温度等に留意しましょう。

- (1) 乾燥初期の送風温度を低く（25℃程度に）おさえましょう。
- (2) 送風湿度を下げすぎないようにしましょう。
 （送風湿度50%程度を下限值として、外気温湿度状態に応じて加温条件を設定。ただし、逆に大豆水分20%程度で乾燥初期に湿度と温度を上げると蒸れが生じる場合があります）

被害粒発生のしくみ

被害粒のうち、裂皮粒やしわ粒は、子実肥大期での充実不足等、成熟期までに生理的に起きるものもあるが、乾燥時にも発生することが知られています。急速な乾燥を避け、土作り等で地力の維持に努めることも必要です。また、亀甲じわは、子実形成から収穫期前後までの乾燥・吸湿の過程で、皮と子実の収縮・伸長の繰り返しが原因でおきるので、刈り遅れは厳禁です。

裂皮粒・・・乾燥初期に表面水分のみが急激に低下した場合

＝ 送風温度が高く、乾いた空気を送った場合に多発！

しわ粒・・・同様に裂皮しない程度に変形した表皮に大豆中心部からの水分が移行し発生

大豆クリーナーの利用

コンバイン収穫における汚損粒の発生は、土砂に大豆の茎水分や雑草の汁液が混じったものが子実表面に固着することが主な原因です。

- ・ 汚損粒の発生要因・・・大豆の高い茎水分、雑草の多発、大豆の倒伏、不均一な培土、収穫時の土砂のかき込み、莢先熟、収穫時の長雨等

大豆クリーナーの使用については、処理方式が乾式・湿式の違いにより能率や品質への影響が異なるので、特徴をふまえた上で使用しましょう。

表2 大豆クリーナーの特徴

処理方式	主な特徴	処理量(kg/時)
乾式クリーナー	長所:効率的で高能率 短所:表面が研磨されるため長期貯蔵で加工適性が低下	600前後 (連続バッチ8分処理)
湿式クリーナー	長所:処理による加工適性の低下がみられない 短所:しわ粒発生のおそれあり、処理能力がやや低い	400~600 (水量300%1回処理)

II 小麦

小麦の播種適期を迎えています！

例年播種が遅れることによって生育量が足りないまま越冬する小麦ほ場が多く見受けられます。適期を逃さず作業を行い生育量の確保に努めましょう。圃場条件が整わず適期を逃した圃場では、播種量を増やし、条件の良い時を待って播種しましょう。

1 小麦の播種適期を迎えています

小麦をはじめ、畑作物にとって播種は非常に重要な作業です。適期を逃さず確実に播種を行い生育量を確保しましょう。

2 もしも適期を逃したら・・・播種時期が遅れたときの播種量の考え方

- ・ 各地区の播種晩限から1週間遅れるごとに10%播種量を増やします。
- ・ 県中南部で播種時期が11月に入るような場合は冬期播種に切り替え、12月以降に播種を行います。
- ・ 播種適期はできるだけ守るのが基本ですが、ほ場条件が良くない場合には作業を見合わせましょう。無理に播種しても発芽不良になるだけです。適期が過ぎてしまった場合は播種量を増やし、目標株立数が確保できるよう努めましょう。

表3 県内の地帯別播種適期

地帯	播種期(月.日)		適期日数 (日間)
	早限	晩限	
高標高地	9.15	9.25	11
県北部	9.15	9.30	16
県中部及び沿岸北部	9.20	10.5	16
県南部	9.25	10.20	26

表4 品種別の播種量と目標株立数

品 種 名	播種量(kg/10a)		目標株立数 (株/m ²)	千粒重 (g)
	ドリル播	全面全層播		
ナンブコムギ	4~6	5~8	75~120	41
ネバリゴシ	6~8	8~10	130~170	37
ゆきちから	6~8	8~10	120~160	39
コユキコムギ	6~8	8~10	120~160	41
キタカミコムギ	6~8	8~10	115~150	42
ファイバースノウ (大麦)	6~8	8~10	130~170	38

注) 播種粒数に対して株立率を80%(全面全層播は64%)として求めた。

3 冬期播種

冬期播種のイメージをまとめたものを表5に示しました。

冬期播種を行った小麦は、雪解け後から出芽を開始し、出穂・開花は1週間程度遅れるのが特徴です。播種量、基肥とも秋まき小麦よりも多くなります。

冬期播種は基本的に県中南部の排水条件が良好な圃場を想定しています。雪解けが遅かったり、排水条件が整わない圃場はおすすめできません。

表5 冬期播種栽培の技術体系

月	10			11			12			1	2	3			4			5			6	7			
旬		上	中	下	上	中	下					上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	
作業等	① ②	②			④ ⑤													⑦				⑧			
		←			←							←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
			③								出芽期				⑥			出穂期				成熟期			

作業の種類	作業内容	作業上の留意点
①排水対策	額縁明渠、心土破碎、圃場内排水溝	特に初年目転換田では、湿害防止のため排水対策は必ず実施する。砕土率向上のため排水の良好な圃場では、耕起・砕土は数回実施する。また、冬雑草抑草のため、耕起・砕土から播種までの間をあけすぎないこと。
②耕起 砕土	プラウ耕、ロータリー耕 ハロー耕	
③種子消毒	浸漬処理、塗沫処理	主に雪腐病を対象とする。
④施肥	播種同時側条施肥とし、施肥量は窒素成分で8~10kg/10aとする	施肥機構付きのドリルシーダーを使用する。リン酸・カリの施用は秋播慣行並みとする。追肥は基本的に不要。
⑤播種	播種期は12月（根雪前）とし、播種量は15kg/10a程度とする。	土壌表面が凍っている早朝に播種すると作業性がよい。播種深度は3~5cmを目標とする。
⑥除草剤散布	越冬直後に土壌処理剤、または雑草発生始期に広葉雑草対象の茎葉処理剤を散布する。	冬期播種栽培で使用できる除草剤の例 土壌処理剤：ダイロン水和剤 茎葉処理剤：ハーモニー75DF水和剤、アクチノール乳剤、バサグラン液剤
⑦殺菌剤散布	秋播慣行と同様に実施する。	出穂・開花期は秋播慣行よりも1週間程度遅いので、ステージをよく確認のうえ（特に赤かび病）散布する。
⑧収穫・乾燥	秋播慣行に準ずる。	成熟期は秋播慣行より2~7日遅い。

農作物技術情報第8号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
急ぐより 家族の笑顔を大切に 想う心で ゆとりの仕事

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 野菜

発行日 平成21年 9月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆雨よけトマト 保温と裂果の発生防止
- ◆露地きゅうり 重要病害に対する防除の徹底
- ◆ほうれんそう 適切な温度管理と病害虫防除
適期は種と温度管理による品質の向上 (寒締めほうれんそう)

1 生育概況

- (1) 露地きゅうりは、成り疲れや低温経過で出荷量は減少傾向です。べと病、炭そ病、褐斑病等の発生により収穫終盤の圃場も目立ってきています。
- (2) 雨よけトマトは、低温経過により小玉傾向に加え裂果の発生が増加しており、出荷量は減少傾向です。葉かび病、灰色かび病の発生が増加傾向にあります。
- (3) ハウスピーマンは、草勢の低下や斑点病やうどんこ病の発生が増加傾向にあります。露地ピーマンも草勢の低下や果実肥大が進まない傾向にあります。
- (4) 雨よけほうれんそうは、現在ほぼ順調な生育となっています。一部ではハウレンソウケナガコナダニやシロオビノメイガ等の害虫による被害が散見されています。寒締めほうれんそうの播種が始まっています。
- (5) ねぎは、収穫が継続して行われていますが、病害の発生がやや多い傾向です。
- (6) 県北高冷地でのキャベツ・レタスは、7、8月の天候不順による生育不良の影響が一部で見られるものの、現在はほぼ安定した生育となっています。

2 技術対策

(1) 雨よけトマト

低温経過により裂果の発生が見られています。

今後、さらに発生しやすい条件が加わるので、夜間の保温に留意してください。この際、ハウスの密閉により湿度が高くなり、葉かび病や灰色かび病が再び多発したり、疫病が発生しやすくなるので、防除に努めてください。

また、裂果の発生軽減技術として全摘葉処理が有効です。全摘葉処理の方法は前号を参考にしてください。



写真1 全摘葉処理を行うことで、裂果の発生を 방지し収穫可能な果実が増加する。時期は9月下旬～10月初めまでとする

(2) 露地きゅうり

成り疲れと、炭そ病や褐斑病・べと病のまん延による草勢低下が顕著になります。本年は、特に炭そ病と褐斑病のほか、つる枯病や斑点細菌病の発生が多い傾向にあるので、効果の高い薬剤を選定し、防除に努めてください。この際、発病がひどい株は抜き取り、圃場外へ持ち出すことも必要です。

今後は、気温も低下してくることから強い摘心は控え、アーチから飛び出した弱い芯を指先で摘む程度に止めます。摘葉は病葉・古葉・黄化葉等を中心に行い、追肥は収穫量を考慮しながら速効性のタイプを施用し草勢維持を図りましょう。

本年度、株が急に萎れる症状が見られた圃場では、片づける前に根を引き抜いて表面にホモプシス根腐病による黒変症状がないか確認しましょう。疑わしい症状が見られた場合は最寄りの指導機関に連絡し、次年度以降の対策を検討してください。



写真2 ホモプシス根腐病による根の状態
(左上：黒変症状 右：200倍に拡大)

(3) 雨よけほうれんそう

年内収穫のためには種時期はほぼ終わりです。近年、秋の気温が高く推移する傾向が続いていますので、ハウスの開け閉めなどによる温度管理を適切に行い、現在生育中のほうれんそうが確実に収穫できるようにしましょう。

ハウスを閉める時間が長くなると、べと病の発生も多くなります。べと病抵抗性品種を利用している場合であっても、日中は積極的に換気して、病害が発生しにくい条件にしましょう。

ホウレンソウケナガコナダニによる被害が多くなる時期です。今年は夏期にも被害が見られたほ場がありましたので、今年被害があった圃場では、殺虫剤の散布を行いましょう。農薬散布は薬液が心葉まで届くように丁寧に行いましょう。また、一部地域ではシロオビノメイガによる食害が多くなっています。最初は心葉の隙間に入り込んでいるため見つけにくいので、注意して観察し、防除が遅れないようにしましょう。

作付け終了後は、来年の施肥管理の適正化のために、土壌診断を受けるようにしましょう。



写真3 シロオビノメイガによる食害（矢印の部分に幼虫がいます）

(4) 露地葉茎根菜類

ア ねぎ

気温の低下とともに生育は緩慢となってきていますが、最終土寄せから収穫までの日数が長くなりすぎると、品質の低下につながりますので、計画的な作業に努めましょう。

病害の発生が多い傾向ですが、農薬散布は収穫前日数に注意して適正に行いましょう。

イ キャベツ・レタス

県北高冷地の収穫は終盤です。作付け終了後のマルチ、残渣の処理を適切に行いましょう。病害により収穫できなかったものは早めに処理して、被害が蔓延しないように注意しましょう。

来年に向けて土壌診断の実施や堆肥施用による土づくりに努めましょう。

(5) 冬春野菜

ア 寒締めほうれんそう

パイプハウスを利用する場合は種期の限界は、地域や気象経過、品種、保温方法によっても異なりますが、10月中旬頃が目安です。

保温のし過ぎで生育が進むと、十分な低温に遭遇する前に収穫サイズに達してしまう一方、温度が低すぎると収穫サイズに達しないまま冬を越してしまいます。本県の寒締めほうれんそうの出荷期間は12月～翌2月が基本ですので、ほうれんそうの生育状況に応じて温度管理を行いましょう。詳しくは平成17年度試験研究成果「寒締めほうれんそうの作期判定と生育調節技術」を参照して下さい。

大雪の影響でパイプハウスが倒壊する場合があります。寒締めほうれんそうを作付けするハウスは1棟おきにして、作付けしないハウスはビニールを外す等、除雪しやすいようにしましょう。

イ 伏せ込み促成アスパラガス

気温の低下とともに地下部への養分転流が進む時期です。自然に地上部が黄化して枯れ上がるように、台風による倒伏などで茎葉が傷むことがないようにしましょう。

本年度も気温は高めに経過する見込みです。根株の無理な早掘りは収量の低下につながりますので、5℃以下の遭遇時間を参考にするなど適切な時期の掘り上げを心がけましょう（平成18年度試験研究成果「アスパラガス年内どり作型における1年養成根株の掘り取り時期」参照）。

農作物技術情報第8号は10月29日（木）発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
急ぐより 家族の笑顔を大切に 想う心で ゆとりの仕事

農作物技術情報 第7号 花き

発行日 平成21年 9月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- りんどうの病害虫防除の徹底と、翌年に向けた収穫後管理を行いましょ
- 小ぎくの健全な親株を確保しましょ

りんどう

1 生育概況

彼岸時期の生育・開花は、やや早めとなりましたが、おおむね順調に経過しました。一部でハダニ類やホソハマキ類の被害が多い地域が見られますが、全般に発生は少なめとなっています。

2 病害虫防除

- 葉枯病：秋期にも降雨により拡大する可能性があるため、株養成ほ場の防除を継続します。
- 褐斑病：発生がやや多く見られます。有効な薬剤を散布するほか、被害茎葉を圃場外に持ち出して処分します。
- 花腐菌核病：初夏からの気候の変動で発生が早く見られた地域もありますが、おおむね平年並みの発生時期となり、現在発生が見られています。花腐菌核病は花卉から感染するので、蕾から花卉が見えている品種の花蕾部への防除が必要です。各地域の暦にしたがって防除を進めてください。降雨が続く場合は散布間隔を短くし、防除は10月末までは継続します。発病が見られた場合は、菌核ができる前に被害茎を圃場外に持ち出して処分します。
- リンドウホソハマキ：盛夏過ぎから茎への侵入による被害の発生が多く見られています。また定植一年目のほ場でも被害が見られています。発生の状況を確認するとともに、発生の見られるほ場では、残茎葉の折り取りを確実にを行い、ほ場外で確実に処分します。
- アブラムシ類・アザミウマ類：開花中～開花後に特に増加します。アザミウマ類やハダニ類の発生が多い地域がありますので注意が必要です。これらの害虫は、ウイルス病を媒介するおそれがあることから、収穫後の残花部分は確実に折り取り発生を抑えます。極晩生種でも発生が広がるので薬剤散布に努めます。



定植年のリンドウホソハマキ被害

3 収穫後の管理

- 収穫後の圃場は病害虫防除がおろそかになりがちで、病害虫が多発しやすくなります。翌年の発生原因ともなるので、収穫後も防除を継続してください。
- 収穫後は花の着いた茎の部分の折り取り病害虫防除と株養成を促します。定植年の株でも開花しますので、花はできるだけ摘み取ってください。
- 茎葉の折り取り・刈払い：ウイルス病などの感染を防ぐため茎葉が完全に枯れてから刈り払います。晩生種や極晩生種は枯れる時期が遅くなりますが、無理な折り取りで株を傷めることがあるので、その場合は春に折り取るようにします。

- 雑草防除：翌春の雑草対策のため、秋のうちから圃場内外の雑草対策を行うことが効果的です。

小ぎく

1 生育概況

9月咲品種はやや早めの開花となりましたが、おおむね順調に開花しました。全般に病害虫の発生は少なく経過していますが、一部で上位葉への白さび病の発生や、土壌病害による枯れ上がりも見られます。

2 病害虫防除

秋の涼温となると白さび病の感染が多くなります。また、他の害虫類も残っているので、病害虫防除を継続します。また採花ほ場とあわせて、来年採穂用の親株への防除も行います。

3 親株管理

- 栽培計画：翌年の栽培に向け、各品種の開花期や特性を整理します。そのうえで品種構成や作付面積を決定し、必要な親株の数量を確保します。

- 親株管理：次年度用に選抜した親株には、収穫後、順次土寄せ、追肥を行って株養成します。茎が伸びてきたら適宜刈りを行い、伸びすぎないように管理します。

親株のハウスへの伏せ込みは10月下旬～11月上旬頃までに行い、早めに活着させるよう管理します。伏せ込みは、品種や株の充実状態等により適する方法が異なり、また病害虫の持込程度も異なるので、適した方法で作業を進めてください。

親株での伏せ込みは、冬至芽の発生の少ない品種に適し、作業の手間も少なく済みますが、白さび病などの病害を持ち込む事が非常に多くなるので、薬剤散布に注意が必要となります。かき芽利用は、冬至芽の発生の遅い品種、少ない品種に有効ですが、病害を持ち込みやすくなり、株での伏せこみより手間がかかります。また冬至芽を利用する場合は、揃いが良くなり病気の持込が少なくなりますが、伏せこみ作業に労力がかかり、冬至芽の発生が少ない場合には利用できません。

ストック

1 定植後の管理

- かん水：蕾が見える頃までは十分にかん水し、草丈を確保します。発蕾後のかん水量が多いと花穂部の徒長や茎の軟弱化を招くので、かん水を徐々に控えます。

- 温度管理：できるだけ涼しい温度で管理することを心がけます。霜が降りる頃まではハウスを開放しておきます。強風等によりハウスを閉める場合は循環扇等を利用して空気を対流させ、徒長や菌核病の発生を防ぐよう努めてください。

- 追肥：生育に応じて速効性の肥料を施しますが、草姿の悪化を防ぐため発蕾までに終えます。

2 コナガ防除

- 生育中の薬剤防除は、抵抗性獲得を避けるため異なる系統の剤のローテーションでの使用を徹底します。

- またハウスの開口部を防虫ネット（目合いが1mm以下のもの）でふさぐことも効果的です。この場合通気性が悪くなり品質低下の原因となる場合があるので、風通しの悪い場所では注意が必要です。

農作物技術情報第8号は10月29日（木）発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
急ぐより 家族の笑顔を大切に 想う心で ゆとりの仕事

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第7号

果樹

発行日 平成21年 9月25日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

◆ りんご中生種の適期収穫・すぐりもぎを徹底しましょう！！

りんご

1 生育状況

(1) 果実肥大

定点観測地点(表1)の果実肥大(横径)を県平均でみると、平年をやや上回ってほぼ前年並と、概ね順調に生育しています。

表1 県内の定点観測ほ場における果実肥大(横径)状況(9月21日時点)

(単位:mm)

市町村	地区	ジョナゴールド(わい性樹)					ふじ(わい性樹)				
		本年(H21)	前年(H20)	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年(H21)	前年(H20)	平年	前年比(%)	平年比(%)
岩手県農業研究センター		87.3	89.1	90.8	98	96	86.0	88.0	84.2	98	102
岩手町	一方井	87.5	88.6	90.3	99	97	85.8	86.9	82.9	99	103
盛岡市	三ツ割	89.1	90.5	89.2	98	100	83.4	86.4	82.8	97	101
紫波町	長岡	93.2	93.9	90.9	99	103	88.8	85.2	85.5	104	104
花巻市	中根子	92.3	93.2	89.3	99	103	87.8	88.8	81.5	99	108
北上市	立花	94.4	93.4	92.6	101	102	89.9	89.8	85.8	100	105
奥州市	前沢区稲置	86.7	87.5	89.0	99	97	84.5	86.4	85.3	98	99
	江刺区伊手	88.8	89.5	90.1	99	99	82.2	83.7	81.8	98	100
一関市	花泉町金沢	90.1	95.2	88.7	95	102	84.7	82.1	81.6	103	104
	大東町大原	89.8	88.3	86.9	102	103	87.5	82.9	83.2	106	105
陸前高田市	米崎	84.8	84.5	88.4	100	96	82.2	81.2	82.8	101	99
宮古市	崎山	93.1	95.2	92.0	98	101	88.3	88.1	84.4	100	105
岩泉町	乙茂	92.0	92.4	84.5	100	109	93.6	91.9	83.9	102	112
洋野町	大野下長根	90.8	90.2	88.2	101	103	82.1	82.5	81.4	100	101
軽米町	高家	88.3	89.6	90.5	99	98	84.4	76.5	79.6	110	106
二戸市	釜沢	88.4	95.6	91.5	92	97	88.4	84.4	84.8	105	104
県平均値(参考)		90.0	91.2	89.5	99	101	86.2	85.1	83.2	101	104

※ 県平均値に農研センターのデータは含まれていない

(2) 果実品質

「ジョナゴールド」の果実品質は、硬度が平年よりやや低いものの、糖度やデンプンの消失はほぼ平年・前年並みとなっており、中生種の収穫期についても極端な進みや遅延はない状況です(図1~3)。しかし、今後の気象によって、熟度の進みが変化することがありますので、着色管理を進め適期収穫を心がけましょう。

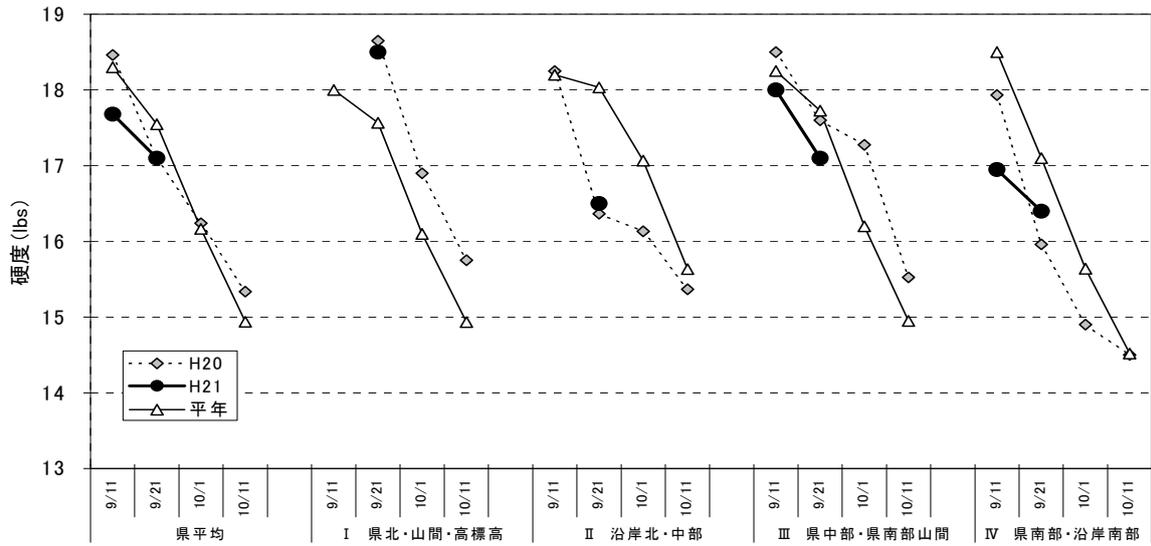


図1 ジョナの硬度の経時変化

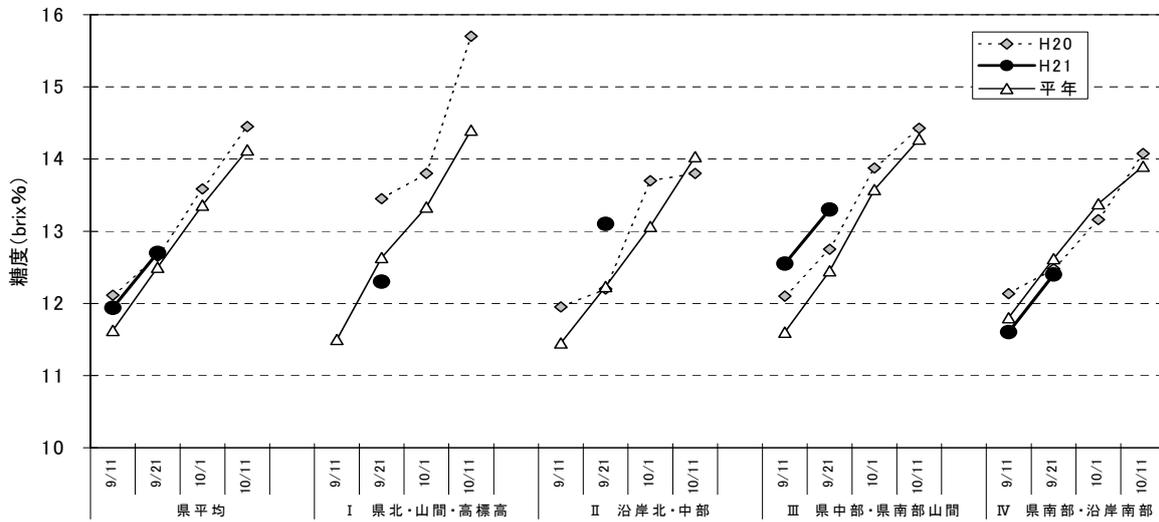


図2 ジョナの糖度の経時変化

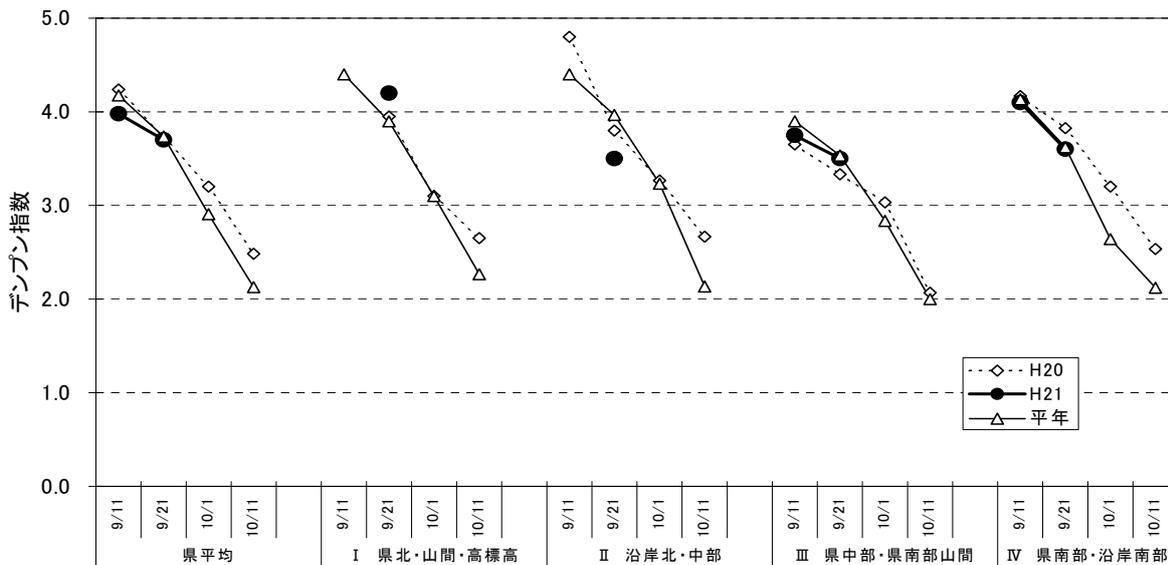


図3 ジョナのデンプン指数の経時変化

2 管理作業

(1) 中生種の管理

- ア 「ジョナゴールド」などの着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで2～3回行います。玉まわしと同時に適度な強さに葉を摘みます。
- イ りんごの着色適温は15～20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないため、過度の葉摘みとならないよう注意します。
- ウ 「ジョナゴールド」については、着色が不揃いとなりやすいので、徹底したすぐりもぎを行い、収穫と同時に葉摘み、玉回し等着色管理を進めます。
- エ 収穫が遅れると果肉の軟化、果皮の油上がりが発生して、販売上不利になりますので、適期収穫を心がけましょう（表2）。

(2) 「ふじ」の着色管理

- ア 「ふじ」は、着色期間が30～40日間と長いため、陽光面が着色してきた頃（9月下旬～10月上旬）と10月中～下旬の2回に分けて葉摘みを行います。1回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘む程度とし、2回目は適度な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉や枝カゲを残さないよう玉回しを行います。
- イ 過度の葉摘みは、葉が少なくなり果実の着色やみつ入りが劣る、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出ますので注意してください（表3）。

表2 中・晩生種の収穫期の目安

品 種	満開日 起算日数	硬度 (ボンド)	糖度 (brix%)
ジョナゴールド	145～155日	13以上	13以上
王 林	160～170日	14以上	14以上
シナノゴールド	170日以上	15以上	15以上
ふ じ	165～180日	14以上	14以上

表3 「ふじ」の摘葉が果実品質に及ぼす影響(青森りんご試)

処理区分	果周の 増加量 (mm)	糖 度 (%)	みつの 発生(%)	着色	翌年の開 花率(%)
全葉の摘葉	0.74	13.6	0	3	25.0
新しう葉摘葉	3.60	14.5	31	3	58.4
果そう葉摘葉	6.85	14.9	77	4	65.1
無 処 理	7.40	14.9	86	4	66.6

- (摘要)1 摘葉処理は10月3日～10日に行う。
2 果周増加は10月11日～11月11日までの分である。

(3) 「シナノゴールド」の適期収穫について

- ア 「シナノゴールド」の収穫適期の目安は表4のとおり。なお、果面にワックスが出ていない状態では未熟な食味ですが、ワックスを感じられるようになると食味が良好になりますので、果皮にワックスが若干感じられる時期も収穫の目安になると思われます。
- イ なお表面色は「きおう」カラーチャートを用いて果面の比色をしますが、「シナノゴールド」は陽光面と陰光面で着色に差があるため、比色する部位を陰光面とし、測定時は直射日光下を避け、比較的明るい所で行います（図4）。

ウ また実際の収穫にあたっては、カラーチャート及び満開起算日数と内部品質の収穫適期判定基準を参考にしながら総合的に判断し、そして最も確かな判定法は食べてみることで、必ず試食と併せ判断してください。特に、県北・高標高地などでは酸含有量が高くなる傾向があるので、食味の確認を併せた収穫期の判断が重要です。

表4 シナノゴールドの収穫適期判断基準

表面色 カラーチャート指数	満開日 起算日数	硬 度 (lbs)	糖 度 (Brix%)	酸 度 (g/100ml)	デンプン (指数)
指数6以上	170日以上	15程度	15.0以上	0.45前後	1以下

注) 指標チャート:「きおう」カラーチャート(表面色用)

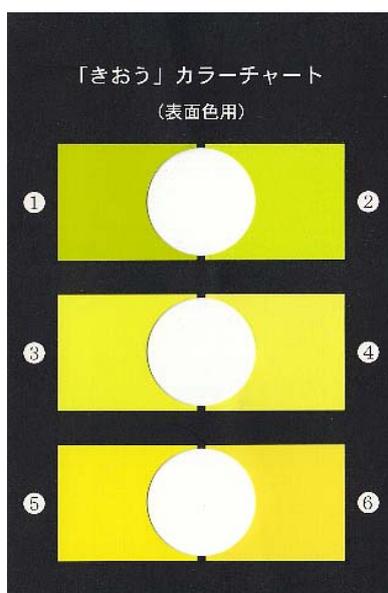


図4 「きおう」カラーチャート
※「シナノゴールド」は陰光面で比色し、指数6以上が収穫適期の目安となる。

3 気象災害対策

(1) 台風対策

10月についても、まだまだ台風が多く発生する時期です。強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、気象情報に注意し、台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限にできるように対策を講じてください。

なお、台風通過後の事後対策については、2009年9月17日発行の技術情報号外「台風対策」に掲載していますので、参照してください。

(2) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨など、園地内が過湿となった場合、裂果や根部の障害による樹勢衰弱の要因となります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を講じましょう。

農作物技術情報第8号は10月29日(木)発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
急ぐより 家族の笑顔を大切に 想う心で ゆとりの仕事

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 畜産

発行日 平成21年 9月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 019-688-5525)

携帯電話用 QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

飼料作物

- トウモロコシの収穫作業が始まりました。圃場・品種ごとに熟期を確認して作業を進めましょう。
- 牧草の刈り取り危険帯の時期に入ります。この時期は刈り取りや施肥を避け、来春の生育にそなえましょう。
- ライ麦の播種適期となります。適期に播種を行い、播種後の鎮圧を確実にを行います。

1. トウモロコシの収穫

今年度のトウモロコシは、若干の収量減が予想される圃場もありますが、熟期は平年並みです。収穫適期になりましたら、速やかに作業を進めましょう。

- (1) 収穫適期を確認して作業に入ります(収穫適期については、第6号を参照してください)。

収穫調製に際しては圃場の水分が十分に低下してから作業を行います。

なお、倒伏したトウモロコシでは収穫作業時にハーベスタ食い込み量の変動が大きく、切断刃の損傷やトウモロコシの詰まりを起しやすいため、作業機の運行速度は控えめにし、圃場状態をよく確認します。切断長が粗くなりやすく原料密度が高まりにくいので、十分な踏圧と早期密封をして、発酵品質低下や二次発酵発生を抑制します。

- (2) トウモロコシ茎葉部に土砂の付着が多いと不良発酵の原因となるので、低刈りによる土砂の混入に十分留意するほか、収穫作業は極力晴天時に行います。登熟が進んでいない場合には収穫時期を遅らせて、土砂の自然落下を待ちます。土砂付着が多い状態で収穫しなければならない場合は、ギ酸などの添加を行って下さい。

- (3) サイレージ調製時の踏圧作業は十分行き、速やかに密封します。作業が2日以上にまたがる場合も、その日の作業終了時に必ず密封します。スタックサイロなどで、十分な踏圧ができない場合は、牧草のロールなどを重しとしてサイロの上に並べる方法も有効です。

2. 草地管理 —牧草の刈り取り危険帯—

オーチャードグラス等の寒地型イネ科牧草は、気温が低下し、日が短くなる短日条件化では茎葉の成長がしだいに鈍化して、株や根の肥大へと移り、越冬の準備態勢に入ります。

この時期に刈り取ると、来春の生育に悪影響を及ぼしますので注意が必要です。

- (1) 危険帯の時期

オーチャードグラスでは、日平均気温が15℃になる日からおよそ40日間が刈り取り危険帯の時期となります。

牧草が休眠に入る時期である日平均気温が5℃以下になるまでに、牧草の地下部に越冬のための貯蔵養分が蓄えられるよう、この時期の牧草の刈り取りは控えましょう。

なお、各地域の刈り取り危険帯の始まり(日平均気温15℃)と終わり(日平均気温5℃)の時期はおおよそ次のとおりとなりますので、参考にしてください。

(下表を見ると、日平均気温15℃と5℃の期間が40日以上ある地点がありますが、牧草が休眠する5℃以下になるまでに牧草地下部に貯蔵養分が蓄えられればよいので、日平均気温が15℃以下になってから40日以上刈り取りを控えればよいこととなります。)

	刈り取り危険帯の始まり (日平均気温15℃)	終わり (牧草休眠) (日平均気温5℃)
奥中山	9月24日	11月13日
久慈	10月4日	11月23日
盛岡	10月2日	11月19日
江刺	10月6日	11月17日
一関	10月8日	11月25日

(リアルタイムメッシュ調べ)

(2) 施肥

刈り取り危険帯の時期に施肥を行うと、牧草は養分の蓄積作業を止め、分けつや成長を始めてしまいますので、この時期は刈り取りだけでなく、施肥も控えてください。

3. ライ麦の播種作業

トウモロコシの後作としてライ麦を作付けする事例も見られます。
ライ麦の栽培のポイントは以下の通りです。

(1) 播種は可能な限り早く行います

ライ麦の収量は、播種時期に大きく左右されるため、早くに播種します。

下に地域別の播種時期の目安を示しました。播種時期がおそくなった場合は、越冬性の悪化及び分けつ不良となり収量が大きく低下するほか、更には翌春の収穫時期が遅くなり次年度のとうもろこし播種作業が遅れるので注意しましょう。

県北 9月中旬 (15日～25日頃) 県央 9月中下旬 (20日～30日頃)

県南 10月初旬 (9月25日～10月10日頃)

(2) 排水の良いほ場で栽培します

ライ麦をはじめ、麦類は湿害に弱いため、排水不良や雪解け水が溜まるようなほ場は避けます。

(3) 品種の選定

冬作物としては極早生、早生品種が適し、それ以降の品種は適しません (ペトクーザ、ハルミドリでは厳しい)。春一番や、キングライ麦を利用します。

(4) 栽培のポイント

ア 施肥

標準的な施用量 (牧草・飼料作物生産利用指針) は、窒素 8kg、リン酸 10kg、カリ 8kg です。ただし、堆肥が施用されている場合 (年2回計 5.5t/10a)、化成肥料施用量を半減 (窒素で 4kg/10a) している事例もあります。また、リン酸とカリについても、堆肥の施用状況に応じて、減じます。

また、指針では、春に追肥 (窒素 3kg/10a) をすることとしていますが、地力のあるほ場では倒伏する恐れがあります。追肥は遅まきによる分けつ不良時など必要に応じて行います。

イ 播種作業

播種量は 8kg/10a です。また、播種後には、必ずローラをかけ、鎮圧し発芽を促します。

農作物技術情報第8号は10月29日(木)発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
急ぐより 家族の笑顔を大切に 想う心で ゆとりの仕事